栃木県
書道連盟
会報

第42号
栃木県書道連盟
会員数　現在 592名
会長　村松太子
〒321-0107
宇都宮市江曽島2－14－1
TEL（028）645－4160
編集事務局
振替口座　00340－3－9017
〒322-0012
鹿沼市松原1－98
印刷　松井ビ･テ･オ･印刷

ご挨拶

栃木県書道連盟
会長　村松　太子

日に日に月が美しく眺められるこの折、会員の皆様には益々ご健筆のこととお慶び申し上げます。コロナ禍も4年目となりその重石も少し軽くなり、活動し易くなってまいりました。

本年、還暦となる第60回本連盟会員展の諸行事に対し、皆様のご協力により大成功の裡に終了でき厚く御礼申し上げます。

まず、4月23日（日）総会後、宇都宮大学共同教育学部美術分野准教授の株田昌彦先生の記念講演会が実施されました。「絵画を制作するということ－油彩画の魅力とは」の演題で、映像によるわかり易い解説で進められ、充分に油彩画の魅力が伝わり、参加者からの好感度良好でした。

次に5月26日（金）から29日（月）に県総合文化センター全ギャラリー使用の第60回記念会員展が開催されました。5月25日（木）は搬入展示が行われ、見事な書展部のリードで、美しいと評判の陳列がなされました。午後には連盟賞5名を選ぶ審査が行われ、磯翠茗・斎藤一吼・日賀野琢・嶋田周・大原綾月5氏の作品が選出されました。書は筆力が命と言われ、傑出した筆力・刀力の作品ばかりでした。続いて5月28日（日）午前中には記念ギャラリートークが実施されました。赤澤豊常任顧問・松本宜響常任顧問・村田幽香顧問を講師にお招きしての開催でした。先生方には本連盟を長年お導き戴いており、書歴からも高い見識を抱かれ、優しくも厳しく、個々の作品に対して次の制作に生きる示唆を戴き感銘を覚えました。

午後には記念イベントとして、本連盟の次の時代を担う4人の中堅に席上揮毫を実施して戴きました。漢字作品の松尾光晴氏、仮名作品の髙田美千子氏、近代詩文書作品の関奨人氏、漢字少字数作品の小野﨑啓太氏に書技の実際を披露して戴きました。その素晴らしさに観客からは溜め息が漏れる程でした。

夕方には会場をホテルニューイタヤに移して、記念祝賀会が開催されました。4年ぶりの書道連盟の宴会に心踊るものがありました。来賓も県文化協会関係の方々や、下野新聞社関係、そして業者の方々をお招きして、78名の祝宴でした。表彰式や福引き等の催しもの等で盛り上がり、久し振りの開放感や祝賀の想いが一つになり、豊かな時間を過ごすことができました。

さて、本連盟も4年後には創立80周年を迎えます。是非、今年のような結束力を持ち続け、更なる成果を積み重ね、素敵な80周年が迎えられますことを期待し、挨拶といたします。

令和5年度 書道連盟通常総会

理事　塚原彩香

令和5年度通常総会は4月23日（日）栃木県総合文化センター第一会議室にて開催された。

村松太子会長挨拶の後、議長に齋藤洋子氏（宇都宮市）を選出、出席者66名で議事に入った。

第一号議案「令和4年度事業報告及び収支決算報告、会計監査報告」

第二号議案「令和5年度事業計画案及び収支予算案」

各議案について熱心な審議が行われ、いずれも提案どおり賛成多数で承認された。

今年の地区活動報告は足利市の上村千嶂氏、宇都宮市の赤澤豊氏から各種の取り組みについて詳しい報告があった。

連盟の益々の発展を期し、閉会した。

総会の様子

第60回会員展

理事　大竹汎泉

第60回記念栃木県書道連盟会員展が令和５年５月26日（金）～29日（月）までの４日間、県総合文化センター第１～第４ギャラリーにおいて開催されました。

赤澤豊常任顧問・松本宜響常任顧問・村田幽香顧問によるギャラリートークでは、希望者が挙手をし、先生方に講評を頂くと言う形を取りました。所要時間が足らない程、多くの方々の講評をして頂きました。60回と言う節目の記念イベントとして県書道連盟の若い活力、将来が嘱望される４人の作家の席上揮毫が開催されました。関さんは調和体、高田さんは仮名、松尾さんは楷書、小野﨑さんは大字とそれぞれ得手のジャンルでの大作での席上揮毫でした。揮毫者や多くの観覧者の熱気が感じられ、若手作家の溢れるばかりの熱意に皆さん、感動した様でした。

比較的若い世代の見学者も多数おられ、若い力のバイタリティーを感じた次第です。天候にも恵まれ記念展と言う事で多くの観覧者があり、コロナ禍が５類に移行後のイベントの開催に久々に活気が満ち溢れ以前の会員展に戻ったような感じが致しました。また、祝賀懇親会では記念展受賞者の声や作品に対する考え方が紹介され来場の皆さんは感動し聞き入ってしまったようです。

５名の書道連盟賞受賞者の皆様方を紹介させて頂きます。磯翠茗、斎藤一吼、日賀野琢、嶋田周、大原綾月の各先生方です。受賞者は中央書壇でも活躍し将来が嘱望される郷土栃木の誇りであります。受賞者の皆様おめでとうございます。

また、祝賀懇親会では抽選会が行われ出席者全員に景品が行き届くと言う素晴らしい企画、協賛業者は素敵な額、筆、墨等の景品、中でもホテル協賛では食事券等素晴らしい商品で盛り上がりました。

60回記念展として盛り沢山の内容になり、記念展は盛大の内に終了致しました。関係各位の先生方の努力と素晴らしい企画に感謝を申し上げます。

ギャラリートーク

会場風景

審査員

会員展集合写真

記念イベント

「席上揮毫」について

理事　北條正浩

5月28日（日）栃木県書道連盟第六十回記念会員展の記念イベントとして、席上揮毫が、松尾光晴氏（小山市）・髙田美千子氏（那須塩原市）・関奨人氏（宇都宮市）・小野﨑啓太氏（宇都宮市）の四氏によって行われました。

14時、１００人を超えるギャラリーが見つめる中、斎藤一吼研修部長の司会でイベントはスタートしました。冒頭、村松太子会長より四氏について、「次の時代を担う中堅の中で、漢字・かな・近代詩文書・大字書の各ジャンルから選出した」との紹介がありました。以下、席上揮毫の様子を簡単に述べさせていただきます。

松尾 光晴氏（小山市）

髙田 美千子氏（那須塩原市）

松尾氏…楷書で27文字を三行書き。墨の飛び散りや筆をつくなどして力強さを表現。その反面、右の文字を見ながら文字の手足を伸ばしたり、墨だれで余白を埋めたり、大胆にして繊細な作品に仕上げました。特に興味深かったのは、師匠から筆速について「墨をつけたときはゆっくり、かすれるにしたがって速く」を意識して書いたとのこと。

髙田氏…大字かな。枕草子の「春はあけぼの…」を水色の紙に、「夏は夜…」を赤い紙３枚に表現しました。春の句は、中央の空間を大胆に空け、最後の「ほそくたなびきたる」を中央下部に配字した見事な構成でした。また、紙面から文字をはみ出させることによって広がりを表現したとのこと。

関氏…行書「浮雲驚龍」、近代詩文書「獅子博兎」。印象的だったのは、顔の高さから筆を下ろし、点を力強く書いていたことです。

さらに、３点目の作品は、５歳の息子さんが言った「夕日の空が…」を書いた世界に一つだけの親子合作に、大変感銘を受けました。

関 奨人氏（宇都宮市）

小野﨑氏…淡墨大字書「遊」「生」それぞれ２作品ずつ。印象的だったのは「遊」の字を体の向きを変えて紙の上方から、しんにょうを右から左に書いていたことです。

また、「生」は直径・深さとも50センチはあろうバケツから、筆と墨を大胆に使い、若さ溢れる生命力を表現していました。完成した作品の前で、子供たちが嬉しそうに記念写真を撮っていたのも印象的でした。

終了したのは15時30分。観客を魅了したあっという間の90分間でした。以上、誠に簡単ではありますが、席上揮毫のレポートといたします。

小野﨑 啓太氏（宇都宮市）

第60回会員展 連盟賞を受賞して

日賀野　琢

この度は六十回という節目の年に記念会員賞を賜り身の引き締まる思いがしております。

これもひとえに審査に当たられました先生方のご厚情によりますものと心より深く御礼申し上げます。

また長い間ご指導賜りました重原聖鳥先生からのご褒美も頂戴し感激も一入でございます。

今回作は「書経」に見える宇宙的な響きの語句「天地萬物父母」を選び、正方形の紙面内で篆書六文字が有機的な塊に見えることを一番の狙いとし、字間、大小、接点に心を配りました。

平成の初より約四十年間、書道連盟の先生方に育てていただき今の私があることに心から感謝し、これからは少しでもそのご恩をお返しできるよう微力ながら邁進する所存です。今後とも変わらぬ御教導を賜りますようお願い申し上げます。

日賀野　琢

磯　翠茗

今般は思いがけず、第60回記念会員展において栄えある連盟賞を賜り、身の引き締まる思いでおります。

『周易（雑卦）』から「革故鼎新」を金文の朱文で刻した作品ですが、いつもながら未完のままの時間切れ、鈍根の自分に恥じ入るばかりの作品でした。ただ、思いは遥かに千古を過り、書道界におけるミッション指向型イノベーション循環をＳＤＧｓとして構築し、来るべき未来に夢を繋いでいかなくてはならないとの使命感に燃えての選文による制作でしたので、凡愚の志を憐れみ受賞させて下さったものと深く感謝申し上げます。これからも栃木県書道連盟の発展に寄与できるよう努力していく所存ですので、ご指導ご鞭撻を下さるようお願い申し上げます。

今般は、本当にありがとうございました。

磯　翠茗

嶋田　周

この度は、第60回栃木県書道連盟会員展において、図らずも連盟賞を受賞しましたこと、大変うれしく思います。60年という歴史ある展覧会で、区切りの年に受賞できたことは大変光栄ですし、感慨もまた一入です。

篆刻作品を出品するようになってから、県内の名誉ある賞を初めていただいたのが、20数年前この連盟賞でした。とても感激したことを思い出します。今回、このような記念の賞を戴けたことも、ひとえに審査に当たられた先生方の厚情によるものと深く感謝しております。

今作の題材は、「毳衣如滿」。美しい衣装で満たされる様を表した言葉で、作品自体も華やかにしたいと文字に工夫しました。更に少し柔らかめの石印材にて印文を刻しましたが、いつもと違う線質が表現できたことが、若干気に入ってます。

この賞の重みをしっかりと受け止め、今後も研鑽を重ね、精進していきたいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

嶋田　周

斎藤一吼

この度、栃木県書道連盟第60回記念会員展におきまして、連盟賞を拝受いたしました。伝統ある栃木県書道連盟の名に恥じぬように、これから先も心技ともに練磨し、少しでも前に進めるように努力していかねばならないと、改めて痛感いたします。作品『翅』は鳥や虫のはね・魚のひれなどの意味がありますが、今回は虫が羽化して飛び立とうとすることをイメージして書きました。まだ弱しくこれから飛べるかどうか不安であるも、透明な美しいはねを表現したかった作品です。私たちのような大字書を書くものは、書くことによって何かを強く印象付けたいと思いながら制作に臨んでいます。まだまだ未熟な作品ではありますが、今回少しでも、認めていただき、賞をいただけたことに心から感謝いたします。

斎藤　一吼

受賞式

大原綾月

この度は第60回記念会員展におきまして大変栄誉ある賞を頂き誠にありがとうございました。審査員の先生方をはじめ連盟の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

また、名誉顧問重原聖鳥先生には、御厚情誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

かな作品を制作するにあたり、題材とする和歌や俳句と長時間対峙しますので、その季節感や作者の心象風景は大切に選びたいと思っております。

紫の睡蓮の花ほのかなる息して嘆く水の上かな　　与謝野晶子

この歌は、いつか睡蓮の花が咲く季節に書展があったらぜひ書いてみたいと何年も自分の中で温めていた歌でした。

これからも、深く静かに題材と向き合い、より良い表現が出来ます様努力して参りますので今後共御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

大原　綾月

受賞者

第60回展記念講演会

「絵画を制作するということ」―油彩画の魅力とは―

講師　二紀会会員・宇都宮大学共同教育学部准教授

株田昌彦先生

理事　林　竹聲

令和５年４月23日（日）栃木県総合文化センターにおいて、通常総会開催後、株田昌彦先生による「絵画を制作するということ―油彩画の魅力とは―」と題した講演会が開催されました。株田先生は１９７６年石川県加賀市生まれ、２００６年に筑波大学大学院博士課程を修了され、２００８年宇都宮大学の講師として着任し、現在は准教授に就任されています。また、二紀会会員として二紀展を始め様々な美術展で多くの賞を受賞されています。

最初に、村松会長から株田先生のご紹介および今回は第60回展記念講演会であり書道以外の先生にお願いしましたとのご挨拶がありました。

引き続き次の内容で株田先生のご講演が行われました。

1．自己紹介
2．見ることの重要性
3．油彩画の魅力
4．制作の実態
5．今後の展望

見ることの重要性では、物を見て描くことが作品にとって重要な環境になり、見て描く経験は学習となるとのお話がありました。「見る（能動）と見える（受動）」の違いについてのお話もあり、受講者が〝ドラえもん〟の似顔絵を描くことにより具体的な違いを体験したり、具象画か抽象画かを当てるクイズもありました。良い絵の条件の評価法「画の六法」についてもお話がありました。六法とは「気韻生動（生命力）」、「骨法用筆（素描力）」、「応物象形（描写力）」、「随類賦彩（彩色力）」、「経営位置（構成力）」、「伝移模写（模写）」。絵画に限らず「良い書の条件」にも相通ずるものがあり大変参考になりました。作品の鑑賞法としては、自分が気に入った作品を時間をかけて見ることが良いとのことでした。今後の制作活動では、制作者の見える化（ギャラリートーク、作品解説）とライブとしての制作（公開制作、制作過程の提示）が必要だと思うとの所感を述べられました。現在、会員展などで行っているギャラリートークや席上揮毫などまさにこれらの活動だと思います。受講された76名の方々も株田先生のご講演で油彩画の魅力を更に感じられたと思います。また、書の作品を制作するうえで重要なポイントを改めて認識できたのではないでしょうか。

最後に、大浦副会長のご挨拶、引き続き花束贈呈が行われ、万雷の拍手で90分のご講演が終了しました。

講演会風景

講演会風景

講師紹介

第六十回記念会員展　祝賀懇親会

理事　見目月華

栃木県書道連盟第60回記念会員展祝賀懇親会が、令和５年５月28日（日）17時30分より、ホテルニューイタヤにて開催されました。

来賓に、栃木県文化協会副会長鈴木源泉様、同　事務局長　手塚隆之様、株式会社下野新聞社販売事業局長　森山知実様、宇台額縁専門製作所　中田富男様、宇都宮キョー和朝日出直斗様をお迎えし、名誉顧問、常任顧問、顧問、参与の先生方を含め、78名の参加者で行われました。

日賀野琢常任理事の司会により、開会の言葉を関口鶴情副会長、主催者挨拶を村松太子会長が述べられ、会長の「会長就任後初めての、実に三年振りとなる開催」とのお言葉に、会場が一瞬どよめき、コロナ禍を乗り越えてきた喜びと、ささやかな安堵感に包まれました。

次に、篠﨑無関総務部長より来賓紹介があり、来賓祝辞では、本連盟名誉顧問でもいらっしゃる鈴木源泉先生、森山知実様より、会員展60回という長い歴史と、日本の伝統文化である書道に、今後も親しんで頂きたいとのお言葉を頂戴致しました。

その後、塚原秀巌事務局長より、本年度審査員、赤澤豊・松本宜響常任顧問、村松太子会長、大浦星齋・五江渕霊水・関口鶴情副会長が紹介され、村松会長より、審査講評が行われました。

続いて、受賞者紹介が川島汀蒲書展部長より行われ、記念会員展賞を受賞された、日賀野琢・磯翠茗・斎藤一吼常任理事、嶋田周理事、大原綾月先生の５名が登壇。会長より賞状が授与され、諸先生方から受賞者挨拶を頂きました。

そして、赤澤豊常任顧問の乾杯のご発声を皮切りに、心待ちにしていた祝宴が始まりました。三年振りの宴に喜びが溢れ、見渡せば皆様明るい笑顔になられていました。楽しみの最中、抽選会も行われました。景品は、宇台額縁専門製作所様、宇都宮キョー和様、あけぼの表具店様、書遊松島堂様、桐葉堂様、ニューイタヤ様より協賛頂き、参加者ほぼ全員が大当たりという、素晴らしい抽選会でした。

60回という記念会員展に相応しく、盛会裡に開催されましたこと、諸先生方、担当者の皆様に心より感謝申し上げます。

本連盟の益々のご発展をお祈り申し上げます。

祝賀会　会長挨拶

景品ゲット

懇親会酒宴

第35回女流展

理事　竹澤久子

第35回栃木県書道連盟女流展は、令和５年２月２日（木）から５日（金）まで栃木県総合文化センターにおいて開催されました。出品点数は１３１点でした。

残寒未だ去らぬ５日には、本連盟村松太子会長をお迎えして講評会が行われました。

その総評は次のようなものでした。

「繊細で優美な流れやダイナミックな筆遣いなどそれぞれの持ち味を発揮した作品が並んでいる。」

また出品者全員へのコメントも頂戴しましたので、ここに掲載させて頂きます。

第35回女流展

講評　会長　村松太子

書はメッセージである。文字や詩文等を通して、自らの思いを伝えようとする芸術。何を書くかが第一であり、どう書くかは第二となろう。

そんな思いを抱きながら各作品の評をさせていただいた。

（敬称略）

〈**相子　心蘭**〉書の遠近感の工夫が立体感を生み運筆のリズムも楽しい。

〈**相田　鳳香**〉季節（春）にふさわしい表現となった。とりわけ２行目の渇筆部が美しい。

〈**穐山真由美**〉線のびやかさと切れ味の良さが響いている。美しい散らしも効果的だ。

〈**秋山　名華**〉静かに白に働く黒が美しい。

〈**阿久津裕美**〉美しい墨色と突いた線が響いていて印象的。

〈**阿久津李香**〉丁寧な運筆が好感度抜群。

〈**阿部　桂舟**〉墨の黒と料紙の明るさが対比を成し美しい。

〈**阿部　春禽**〉リズムに乗った運筆に酔いしれる。

〈**荒川　実穂**〉強い筆力を抱く書線が眼を見張る。

〈**飯野　彩心**〉「月華」の金文が美しく素敵だ。

〈**池田　恵泉**〉ダイナミックな線が躍動している。

〈**伊澤　玲子**〉入念な運筆が好感を生む。

〈**石内　寛子**〉運筆のリズムがいい。濃墨が白を際立たせている。

〈**石川　子澄**〉いつになく躍動していて若々しい表現だ。

〈**石戸　松波**〉日光という地の魅力が発せられ、墨の潤渇が美しい。

〈**板橋　寿鶴**〉句意のごとく、お坊様の境地が伝わってくる。

〈**伊藤　晩雪**〉情感豊かに伝わってくる。

〈**井上　幸枝**〉古筆の美しい散らしと書線の香りが想い起こされた。

〈**井野　維子**〉凜とした姿勢で書に臨んでいるようだ。

〈**大塚　雅恵**〉富士山のダイナミックさが伝わる書である。

〈**大橋　清峯**〉柔らかな書線に豊かさを感じる。

〈**大原　綾月**〉澄んだ境地で表現に取り組まれている。後半２行目が見せ場と思う。

〈**小熊　伸子**〉運筆活動が素敵だ。白が美しくなっている。

〈**尾嶋　知水**〉楽しい隷書が拝見できた。

〈**小野口秀麗**〉丁寧な運筆が良い。書初の厳粛さが伝わってくる。

〈**風間　香泉**〉暖かな書線が情景を悠然とさせている。

〈**柏﨑　麗泉**〉みずみずしい書線が生気をはらみ、書する楽しさが伝わってくる。

〈**加藤　榮舟**〉潤筆渇筆の変化が楽しい。

〈**金田　景雲**〉墨の潤筆と流動する書線が美しい。

〈**釜井　詔子**〉心あたたまる書に出逢えてよかったと思う。

〈**加茂　珠香**〉初夏、白色で紅色のぼかしのある花が確かに魅力的。

〈**亀和田郁芳**〉篆書の味わい深い線が印象に残る。

〈**川島　桂舟**〉伸び伸びとした運筆が痛快である。

〈**川島　汀蒲**〉兎年の今年をことほぐ書である。

〈**川島　奈美**〉草書体の流動の美と書線が句意を高めている。

〈**北村のぞみ**〉印刀の冴えが見事だ。線が強さを増している。

〈**興野　藍水**〉楷書の率直な美がすがすがしい。

〈**久保　千樹**〉島崎藤村詩の抒情が伝わってきてほっとした。

〈**栗原　梅香**〉力まず、弱くならず想いが伝わってきた。

〈**黒川　香織**〉澄んだ世界がある。挑戦しつづけることが大切。

〈**桑子　暉永**〉豊かさと明るい清々しさを抱く線質が素晴らしい。

〈**下司　香雪**〉行の貫通と書線の高まりが好感を生んでいる。

〈**見目　月華**〉上の句と下の句の凝縮と拡散の対比が美しく効果的だ。

〈**小形　則江**〉句の風景を示そうとし、成功している。

〈**小口　佳水**〉心を整え般若心経と向きあい、世界平和を祈る姿が尊い。

〈**小島　惠香**〉伸び伸びと運筆していて好感抱く。

〈**小林　桂華**〉仮名の美を追求して心が解き放たれ伸び伸び表現している。

〈**小林　香風**〉生命力が漲っている快作だ。

〈**小林　春霞**〉春ののどかさが伝わってきて楽しい。

〈**小林　杜子**〉仏様の笑っている姿が彷彿とする。

〈**小室　響川**〉潤渇の対比が美しい。

〈**小森　聖子**〉淡然として無欲な境地が高い。
〈**齊藤　桐香**〉素敵な運筆のリズムで書かれている渇筆が効果的だ。
〈**齋藤　洋子**〉書の豊かさを抱いている。塊として存在を示している。
〈**坂本　典子**〉心をほぐしてくれる書である。あたたかさに充ちている。
〈**笹沼　映子**〉最終画の左手線が響いて効果的である。
〈**佐藤　穂径**〉念願する思いが伝わってくる。
〈**始澤　多恵**〉”寒梅“が高く響いていて美しい。
〈**島崎　香秋**〉「遠」の終筆が楽しい。
〈**嶋田　香紗**〉行間が美しく、安心して拝見できる。
〈**清水　柳絮**〉筆力を駆使した強い線だ。
〈**白井　薫苑**〉無欲を貫いている。
〈**鈴木美代子**〉求心的な黒の強さは、求める何かがある。
〈**鈴木　蓮徑**〉元気が伝わってくる。
〈**須永　茜潮**〉漢字と仮名の調和が自然で明るい。
〈**関谷　小雪**〉素敵なリズムで運筆された書線が美しい。
〈**五月女章子**〉一点集中法の効果絶大。思いが伝わり易い。
〈**高田美千子**〉伸びやかな仮名の書線が美しい。
〈**高根澤深幸**〉重厚な書線が暖かさを感じる。
〈**高橋麻季代**〉自由に伸びやかに書を楽しんでいる。
〈**竹澤　久子**〉感性を研ぎ澄まして作品作りしている。線・字形・散らし・筆のタッチ等。
〈**竹原　春香**〉大胆な運筆が痛快だ。
〈**田名網萬静**〉運筆によどみが無く悠然と書かれている。
〈**田村　京葉**〉躍動した大胆で立体感ある作品となった。
〈**塚田　香蘭**〉伸びやかに運筆され自在である。
〈**塚原　彩香**〉冬ごもりしていた虫たちが地上に出て活動を始める時分の様を表現。待ちわびた春がやってきた。
〈**鶴見　参月**〉源実朝の抱く渡宋の夢（ロマン）が伝わってくる作品。
〈**寺崎　聰子**〉句の風景を運筆をしながら紡ごうとしている。
〈**登坂　時子**〉青墨の美しさと熱い想いが作品感を生んでいる。
〈**時庭　黄葉**〉躍動感ある細線が春の風景を描き出している。
〈**富田　明蘭**〉素敵な明るい作品になった。
〈**中原　藍**〉ダイナミックな表現がよい。命を燃やして書に取り組んでいる。
〈**中原　睦美**〉ほっこりさせる作品である。秀句を選んでいる。
〈**中村　幸子**〉仮名の美しさを追うのも時間がかかる。コツコツ続けて下さい。
〈**西脇　紫竹**〉自由奔放な書風をよく臨書している。
〈**野沢安喜子**〉美しい散らし書きが品を高めている。
〈**萩野谷香華**〉「初春の」の渇筆部が美しい。
〈**長谷川瑞香**〉全体を素敵にまとめている。
〈**花塚　香陽**〉思い切り良く運筆した線と墨色が印象に残る。
〈**林　竹聲**〉春の季節感満載である。
〈**林　游李**〉強靱な刻線を拝見し、運刀の熱気が伝わってくる。
〈**平石　春水**〉運筆の冴えと料紙の鮮烈さが印象深い。
〈**福田　雅音**〉散らし書きの美が成功している。
〈**藤田　貞子**〉長鋒濃墨のこくのある書線と渇筆が春の楽しさを示している。
〈**防木　正華**〉筆力が豊かで感動が伝わってくる。
〈**星　司光**〉何げない日常に美しさを見い出そうとする句が素晴らしい。書も読み易い。
〈**前橋　司澄**〉一点一画健康に運刀されている。
〈**真壁　純枝**〉序・破・急が美しい。
〈**増山　恭晏**〉明るい表現となった。
〈**増岡　弘玉**〉行の貫通が痛快だ。
〈**松島　浩泉**〉立体感がある。楷書が躍動している。
〈**松島　芳子**〉リズムにのった運筆が楽しい。
〈**松本純美代**〉隷書の美が満喫できた。墨の潤渇の対比が効果を生んでいる。
〈**松本　畔雪**〉奥行きがあり立体感を抱いている。
〈**本郷　昌洸**〉力まずに句意を自然に表している。
〈**皆川　桂花**〉誠意あふれる真摯な書だ。
〈**村田　幽香**〉格調の高い透明感のある仮名の世界である。
〈**本島　裕美**〉大胆な運筆が楽しく痛快だ。
〈**山岡　登美**〉明るく楽しくなる書だ。白が美しい。
〈**山越　昌子**〉凜としていて、背筋が伸びる。
〈**山崎　秋月**〉墨色が冴え、筆力が豊かだ。
〈**山田　千代**〉表装が美しい。貫く強い意志を感じる。
〈**山田　雅子**〉米寿をお祝いしたい。
〈**山田　有美**〉春の季節感満載である。春到来待ち望む。
〈**山本　響花**〉「山」字が表情を抱き悠然としている。表装も美しい。
〈**横田　蘭佳**〉筆の弾力性を生かした運筆が大らかさを生んだ。墨の潤渇もよい。
〈**横山　之蘭**〉楷法の美が快い。
〈**吉田　紀子**〉誠実に米芾の書美を追い見事である。
〈**蓬田　彩花**〉句の情景を運筆の妙で伝えている。ドラマチックだ。
〈**我妻　淡雅**〉突き吊る捻（ひね）るの運筆が多彩で美しい。
〈**若林　馨蘭**〉春の小川のゆったりとした明るさをものにした。
〈**和賀　幸恵**〉「一色」の渇筆が美しく印象に残る。
〈**和氣　虹涛**〉自由闊達な書で楽しい。
〈**渡辺　温芳**〉潔い精神が伝わってくる。
〈**渡辺　絹子**〉力まず、そっと自然に運筆し、無欲が良い。
〈**渡邉　司寶**〉情感豊かに表現が展開されている。右下の白が美しい。
〈**渡邊　春峰**〉後半部は魅力に満ちあふれている。
〈**渡辺　祥蒲**〉上部・下部の渇筆が美しい。
〈**大髙　玉香**〉漢字と仮名の調和が美しく、思わず見とれてしまう。
〈**萩野谷聡美**〉突く運筆が白を際立たせ美しい。明快な書だ。

特別研修会

「従七位小林年保君碑」の採拓

理事　小林香風

令和４年10月16日（日）、快晴、日光輪王寺神苑浄土院境内において、日下部鳴鶴書「従七位小林年保君碑の拓本の採り方」研修会が行われました。

午前８時30分、勝道上人像前に参加者48名が集合したところで記念撮影。村松会長挨拶のあと、副会長の大浦星齋先生より、本研修会の経緯についてのお話を、続いて研修部長の斎藤一吼先生から、「有意義な一日となるよう、頑張りましょう。」との挨拶を頂きました。

浄土院境内では、既に嶋田周先生が採拓に必要な、紙・墨汁・刷毛・タンポは勿論、バケツ・脚立等々、準備万端整えて下さっておりました。採拓は、48名が前半と後半に分かれて行いました。各々が碑文の好みの一箇所に半紙程の紙を置き、ずれないように紙テープで数箇所を止め、タンポで墨を隙間なく重ね打ちします。力を入れ過ぎず、丁寧に。次にゆっくり石から剥がすのですが、このタイミングが難しく、先生方にご教示頂きながら、何とか終了。最後に乾かして完成です。貴重な体験と共に、お気に入りのお土産が出来上がりました。

11時30分、昼食は日光金谷ホテルのメインダイニングルームにて。日光市在住の石戸松波先生のお取り計らいにより、厚遇を受けました。全員揃っての久々の会食。話に花が咲き、笑みがこぼれました。

昼食後は再び輪王寺に戻り、宝物殿や逍遥園を見学。

その後、浩養園内にある「保晃会之碑」を大浦先生に案内頂きました。高さ６ｍ、幅３ｍもある石碑は、台座から碑全体まで苔に覆われ、碑文を読む事は困難な状態でしたが、鬱蒼とした森の中で、一際存在感を放っていました。先生は、「この様な碑が県内に何基も有り、数々の碑から歴史を学び知る事が出来る。今回の様な研修を続けて行きたい。」と仰っていました。

研修会も終わりが近づき、充実感で満たされた私達を待っていたのは、思い掛けないサプライズでした。ジャンケンで勝ち残った一名には、当日採拓した「小林年保君碑」の拓本が贈呈される事に。会場が熱気に包まれる中、幸運の勝者が決まると、割れんばかりの拍手で称え、この日最高潮に盛り上がり特別研修会は無事終了となりました。

ご指導下さいました先生方、ご参加下さいました会員皆様、御協力ありがとうございました。深く感謝申し上げます。

（次頁に大浦副会長が作って下さった貴重な資料の一部を掲載させていただきます。編集者）

碑の前で

採拓風景

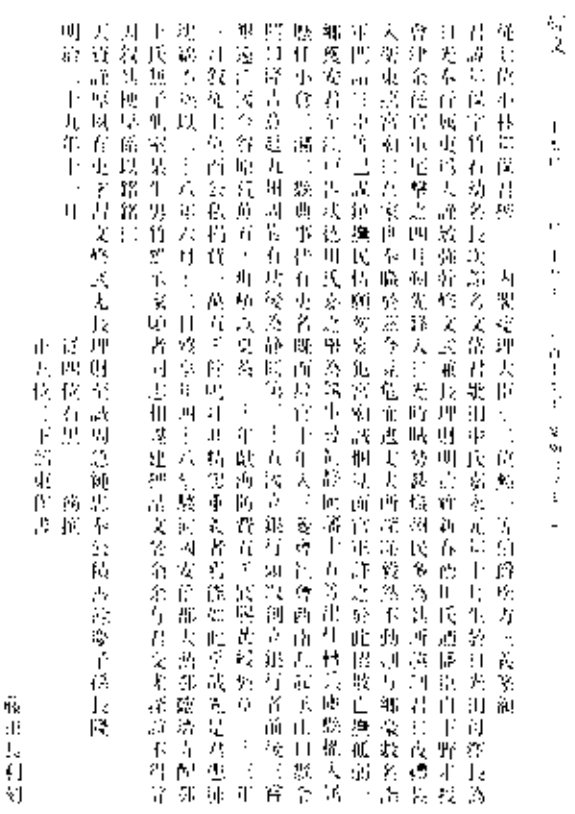
保晃会之碑

参加者集合

「従七位小林年保君之碑」調査報告（一部）

大浦星齋

従七位小林年保君之碑

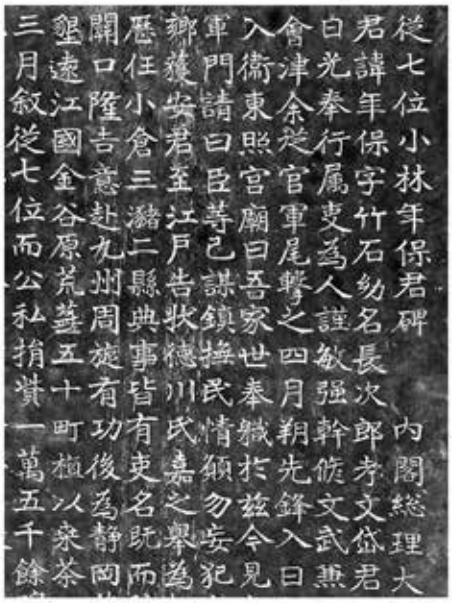


雄渾法による執筆の姿

従七位小林年保君之碑拓冒頭部

【書風】日下部鳴鶴

彼が太政官文書課で公務にあたった頃の公用書体は楷書体でした。ところが師守敬が来朝すると、彼が提唱する碑学と雄渾法に傾倒していくことになります。しかし、彼の書風は、その大隠的な思想とはやや異なって、内面は、和様が持つ穏やかで温雅な個性に裏打ちされていることがわかります。「従七位小林年保君之碑」はその代表的なものといえます。当時の政界、財界の要人との深い交流を持っていた彼の面目躍如がその成評を高めこの日光の地に存することの意義に思いを致します。



従七位小林年保君之碑部分１

従七位小林年保君之碑冒頭部

従七位小林年保君之碑全景

日光　浄土院山門

従七位小林年保君之碑拓

従七位小林年保君之碑部分２

従七位小林年保君之碑碑陰

従七位小林年保君之碑碑隅

各部の方針と活動内容

総務部

部長　篠﨑無関

今年度の総務部の事業はコロナ禍前に戻ることとなりそうです。4月の総会の進行運営も無事に終えることができました。また5月には久々の酒宴となる60回記念会員展の祝賀懇親会も開催でき、その司会や福引きの進行も滞りなく役目を果たせたかと思います。皆様の溢れる笑顔に出会え、ホットしています。この記事が掲載される会報第42号の作成作業は例年通り進んでいます。久しく開催できていなかった「栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者の集い」も、今年度は開催できそうです。怠りなく準備できたらと考えています。

また、書文化の普及と若手育成のための取り組みである「高校生顕彰」につきましては、例年通りの予定で、案内、選考などを行う予定です。

ほとんどの業務が事務局との共同での作業となります。事務局の方々に日頃の感謝とともに、今後とも宜しくとのお願いを申し上げたいと存じます。

総務部のメンバーは担当副会長・大浦星齋、部長・篠﨑無関、担当常任理事・日賀野琢、副部長・澤田寛、倉持玄風、部員・井上都洞、鶴見晨蒲、大類天鶴、見目月華、佐藤孝、赤澤寧生、清水柳絮、塚原彩香の13名です。

書展部

部長　川島汀蒲

書展部では、会員展・女流展の企画、案内、設営を担当します。

本年5月の会員展は、60回の記念展となりました。皆様のご協力のもと、ギャラリートークや席上揮毫の記念イベントも盛大に開催でき、心に残る展覧会となりました。ありがとうございました。

次回も、充実した展覧会となりますよう、書展部一同取りくんでまいります。会員の皆様の、ご参加、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

メンバーは、担当副会長・関口鶴情、部長・川島汀蒲、担当常任理事・磯翠茗、副部長・神長雪華、平石春水、部員・白井薫苑、加茂珠香、萩野谷香華、上村千嶂、大竹汎泉、荒川實穂、石川子澄、竹澤久子、時庭黄葉、大塚浩泉の15名です。

書展予定

◎第36回女流展

◇とき　令和6年2月15日(木)～18日(日)

◇ところ　栃木県総合文化センター

◎第61回会員展

◇とき　令和6年4月26日(金)～29日(月)

◇ところ　栃木県総合文化センター

研修部

部長　斎藤一吼

まだまだ油断はできませんが、コロナウイルス感染症の猛威は下火になり、世界中に自由な空気が溢れてきました。栃木県書道連盟の活動も少しずつ以前のものに近づいてきており、本年度はすでに宇都宮大学の株田昌彦先生による第60回記念講演会と記念イベント席上揮毫が終了し、採拓の講習会を実施予定です。また、採拓の準備としての調査も終了し、講習会の準備が進行中です。今年度は担当副会長・五江渕霊水、部長・斎藤一吼、担当常任理事・松本純美代、副部長・石戸松波、嶋田周、部員・秋山名華、斎藤裕一、星司光、小林香風、板橋寿鶴、大塚雅恵、亀和田郁芳、林竹聲、北條正浩、山本響花の15名で活動しております。今後も研修部一同力を合わせて一生懸命頑張っていきたいと思います。

活動内容

◎記念講習会

◇とき　令和5年4月23日（日）15時～16時30分

◇ところ　栃木県総合文化センター第一会議室

◇講師　株田昌彦先生

◇内容　「絵画を制作するということ」―油彩画の魅力とは―

◎記念イベント席上揮毫

◇とき　令和5年5月28日（日）14時～15時30分

◇ところ　栃木県総合文化センター第4ギャラリー

◇内容　小野﨑啓太、関奨人、髙田美千子、松尾光晴各氏による席上揮毫

◎研修会

◇とき　令和5年10月15日（日）9時～15時

◇ところ　栃木市第二公園・満福寺

◇内容　碑拓の採り方研修他

令和５年度　栃木県書道連盟　役員名簿

番号	役職名	地区名	専門部	姓号
1	名誉顧問	宇都宮		久津美碧洋
2	名誉顧問	芳賀郡市		重原聖鳥
3	名誉顧問	塩谷		鈴木源泉
4	常任顧問	宇都宮		赤澤豊
5	常任顧問	宇都宮		松本宜響
6	顧問	宇都宮		木曽梅邦
7	顧問	宇都宮		癸生川天遊
8	顧問	大田原		村田幽香
9	参与	宇都宮		生田目史雲
10	参与	宇都宮		荒井雅子
11	参与	宇都宮		中山志峰
12	参与	宇都宮		大谷津紫水
13	参与	宇都宮		山田雅子
14	参与	宇都宮		吉田竹溪
15	参与	宇都宮		下司香雪
16	参与	宇都宮		小森梅壽
17	参与	宇都宮		櫻井敬朔
18	参与	足利		漆原常石
19	参与	足利		阿部祥廬
20	参与	大田原		長嶋石城
21	参与	大田原		塩野玄機
22	参与	大田原		川嶋奈美
23	参与	小山		上野鶴陽
24	参与	小山		林游李
25	参与	小山		山﨑秋月
26	参与	鹿沼		兼目悠久
27	参与	さくら		小森聖子
28	参与	佐野		柳田昂雲
29	参与	下野		生沼冬情
30	参与	栃木		腰塚藤翠
31	参与	栃木		田中暁亭
32	参与	栃木		小林桂華
33	参与	那須塩原		笹沼映子
34	参与	那須塩原		高橋金舟
35	参与	那須塩原		大場山東
36	参与	上三川		小形則江
37	参与	塩谷		鶴見芳花
38	参与	塩谷		山本紅葉
39	参与	塩谷		加藤榮舟
40	参与	下都賀		高橋瑞峰
41	参与	芳賀郡市		矢野弓翠
42	会長	宇都宮		村松太子
43	副会長	下野	総務	大浦星齋
44	副会長	塩谷	研修	五江渕霊水
45	副会長	足利	書展	関口鶴情
46	常任理事	鹿沼	事務局長	塚原秀巌
47	常任理事	塩谷	研修部長	斎藤一吼
48	常任理事	栃木	書展部長	川島汀蒲
49	常任理事	矢板	書展部担当	磯翠茗
50	常任理事	宇都宮	総務部長	篠﨑無関
51	常任理事	宇都宮	総務部担当	日賀野琢
52	常任理事	鹿沼	事務局会計	渡邉司寶
53	常任理事	小山	研修部担当	松本純美代

番号	役職名	地区名	専門部	姓号
54	理事	宇都宮	総務部副部長	澤田寛
55	理事	宇都宮	総務部	大類天鶴
56	理事	宇都宮	総務部	井上都洞
57	理事	宇都宮	書展部	萩野谷香華
58	理事	宇都宮	研修部	星司光
59	理事	宇都宮	総務部	鶴見晨蒲
60	理事	宇都宮	事務局	五月女章子
61	理事	宇都宮	総務部	赤澤寧生
62	理事	宇都宮	研修部	山本響花
63	理事	宇都宮	事務局	北村のぞみ
64	理事	宇都宮	研修部	亀和田郁芳
65	理事	宇都宮	事務局	関奨人
66	理事	足利	書展部	上村千嶂
67	理事	足利	研修部	秋山名華
68	理事	大田原	総務部	佐藤孝
69	理事	大田原	事務局	大高玉香
70	理事	小山	総務部副部長	倉持玄風
71	理事	小山	総務部	清水柳絮
72	理事	小山	総務部	塚原彩香
73	理事	鹿沼	研修部	板橋寿鶴
74	理事	さくら	書展部副部長	平石春水
75	理事	佐野	書展部	大竹汎泉
76	理事	下野	事務局	鈴木蓮徑
77	理事	栃木	研修部	小林香風
78	理事	栃木	研修部副部長	嶋田周
79	理事	栃木	書展部	白井薫苑
80	理事	栃木	書展部	加茂珠香
81	理事	栃木	研修部	林竹聲
82	理事	那須烏山	研修部	齋藤裕一
83	理事	那須塩原	書展部	時庭黄葉
84	理事	日光	研修部副部長	石戸松波
85	理事	日光	書展部	荒川實穂
86	理事	矢板	書展部副部長	神長雪華
87	理事	上三川	研修部	北條正浩
88	理事	塩谷	書展部	大塚浩泉
89	理事	塩谷	総務部	見目月華
90	理事	下都賀	書展部	竹澤久子
91	理事	芳賀郡市	研修部	大塚雅恵
92	理事	芳賀郡市	書展部	石川子澄
93	監事	宇都宮		岡村白秋
94	監事	小山		坂本典子

事務局

番号	役職名	地区名		姓号
1	常任理事	鹿沼	事務局長	塚原秀巌
2	常任理事	宇都宮	事務局次長	篠﨑無関
3	常任理事	鹿沼	事務局会計	渡邉司寶
4	理事	宇都宮	事務局	五月女章子
5	理事	大田原	事務局	大高玉香
6	理事	宇都宮	事務局	北村のぞみ
7	理事	下野	事務局	鈴木蓮徑
8	理事	宇都宮	事務局	関奨人
9		下野	事務局員	柏﨑麗泉
10		栃木	事務局員	佐山春翠
11		さくら	事務局員	花塚香陽
12		宇都宮	事務局員	中原藍

小山市活動報告

常任理事　松本純美代

小山市書道連盟では年に一度小山市書道連盟展、小山市市民文化祭書道展を行っています。今年度の連盟展が七月十四日（金）～十六日（日）に道の駅・思川の評定館で行われ、多くの方にご来場いただき、この場をお借りしてお礼を申し上げます、ありがとうございました。

今回展はコロナ禍以前の体制にもどりつつある社会状況を受けてか、大作も小品作品も例年以上に会員の熱意が感じられる作品となりました。書体についても日頃修練を重ねた重厚なものから、新しい書体に挑んだものと多岐にわたりました。市長、教育長、議長、文化協会長の色紙作品のご出品をいただき、市民の方に喜んでいただけました。

次は秋の市民文化祭書道展に向けて作品制作の構想を練っているところですので、ぜひまたご高覧いただけますと幸いです。

鹿沼市書道連盟の活動

理事　板橋寿鶴

本連盟は、書道愛好者の相互の親睦を図り鹿沼市の文化向上発展に寄与することを目的として、平成12年に発足し現在に至ります。令和４年３月に兼目悠久先生がご勇退なされ、塚原秀巌先生が新会長となりました。

創立20周年の節目に、初めて記念の作品集を作成。また、記念行事として、塚原会長による実技講習会「漢字仮名交じりの書の創作について」を開催し、総勢50余名、大変有意義な学びと交流になりました。

今年度も、10月20日～22日「第45回市民文化祭書道展」、R６年１月10日～14日「第51回市民書初展」、３月15日～17日「第21回鹿沼市書道連盟展と、開催予定です。場所はかぬまケーブルテレビホール【市民文化センター】多目的ギャラリー。

ぜひご高覧賜りたくお願い申し上げます。

下野市書道連盟の諸活動

理事　鈴木蓮徑

本連盟は、高校生から一般の会員、約80名で活動をしています。活動としてまず７月下旬に下野市書道連盟展を開催します。多くの皆様にご高覧いただくために、昨年より会場を栃木県総合文化センターとしました。また若手育成を目標に、近隣の高校の書道部に声をかけ一緒に展覧会活動をするとともに、会期中には多くの市民サポーターのご支援を得て、高校生による書道パフォーマンスを開催し、活動の活発化に繋げています。

また、実技講習会と研修旅行を隔年で開催しています。近年はコロナ禍で開催できない状況でしたが、この２月には栃木県書道連盟常任理事の塚原秀巌先生を講師にお迎えし充実した講義をご教授していただくことができました。

さらに５月の総会時には尾花也生先生をお迎えし、ご講話をいただくとともに、手島右卿先生執筆の折帖を見せていただきました。たいへん勉強になり，今後の活動につなげて行きたいと思います。

矢板市書道連盟の近況

理事　神長雪華

本連盟は、平成17年６月に発足し、18年が経過しました。

昨年度の総会において、「矢板市塩谷町合同書道連盟」から「矢板市書道連盟」に名称変更をしました。

本連盟では、昨年度、コロナウィルス感染症に留意しながら、小中学生を対象に、人数を制限して、「夏休み書道体験教室」を開催しました。

また、「矢板市地域学校協働本部」の一員として、市内小中学校のスポーツ大会の賞状揮毫などを行いました。

本年度は、コロナウイルス感染症も落ち着いてきましたので、会員展を含め、通常の行事を実施していきたいと考えています。

今後、会員の相互理解の下、地域に根差した親しめる書道連盟として、一人でも多くの方に入会いただき、書を楽しんでいただける書道連盟を目指していきます。

先達に聴く

栃木県書道連盟展も今回展で60回を迎え、創設76年となり80周年に近づいてまいりました。この機に先輩方にお話を伺い、今後の連盟のあり方のヒントなどをいただけないかと考え企画いたしました。今回は本連盟創設者の一人宮下竹洞先生の跡を継ぎ、書典会を45年にわたり主宰なされてきた久津美碧洋先生（本連盟名誉顧問）にインタビューしてきました。

（久）久津美先生・（編）編集子

（編）本日はお忙しい中ありがとうございます。最初に宮下先生や書典会の歴史などについてお聴かせください。

（久）書典会の創設は昭和28（１９５３）年。その当時竹洞先生は専売公社宇都宮地方局の人事主任の要職にありました。その当時の局長が元大蔵相官吏としては珍しく文化を好み、南画では「松風」の雅号を持った、いわゆる著名な文化人でした。常に意気投合し、明るい職場作りに積極的でした。竹洞先生は茂木町出身。幼少の頃から書を好み、小学校教師の道を歩んでおられたようですが、「書」への志向が高まり教職を辞し、書の勉学を志して上京。当時の書道界では、書法「芳翠流」を創出して重鎮にあった松本芳翠先生（後の芸術院会員）への入門を許され、研鑽に励まれました。やがて竹洞先生は芳翠先生主宰の競書誌『書海』の上位にあって「芳翠門に楷書の竹洞あり」と評されるようにまでなったそうです。

昭和20年、東京は戦争によりほとんどが焼失。先生も被害を受けられ、やむなく出身地に戻られた。書学の夢も中断せざるを得なかったのでしょう。帰省後は専売公社に入社されたが、先生の書道界における名声は地元の書道愛好者にも周知され、明るい人柄とともに尊敬歓迎されたようです。書典会の創立の経緯ですが、ある日局長が「宮下さん、あなたの豊かな書道の知識と技術を、復興復興で不安定になっている職場・職員の感情を、明日に向かう『共生の心・明るい気持ち』の醸成に役立てる気はないかなあー」と。局長室からびっくりした顔で出てこられ、部下であった私も驚き、「何か具体的には」と尋ねると、「例えば競書誌だよ」と。当時、復興熱が高まり、家庭や企業にも文化的活動が普及してきた頃でした。「書道」についても、企業は「読み、書き、そろばん」のできる人材を欲していた時代でもあり、先生も「それは分かるが、『競書誌を発行する』と、口にするのはたやすいが、実行するのは大変なことだよ」と。先生は、恩師松本芳翠先生に直接電話。芳翠先生は「上司が応援するからやりなさいなど、すごいではないか、是非やれ」と。そして「私も応援するから」とおっしゃった。竹洞先生は、上司・師匠のお二方からの「応援する」という有り難い言葉に、戦災という不運にやや挫折しかけていた書の道への情熱が再燃し、会を結成し、競書誌の発行に踏みきられた。会名は「書典会」、競書誌名は「書典」。発行は昭和28年1月と決定。創刊号の表紙は局長筆による南画を配し、松本芳翠先生揮毫の「書典」の題字が入る豪華なものとなりました。会員については、全国の専売公社事業所の書道愛好者をはじめ、竹洞先生の書友・お仲間の諸先生方に紹介を依頼していただくなどして、その増加に協力を得ました。それにしても、戦後間もなく、まだまだ物資不足、物価高の時代、主宰としての竹洞先生のご苦労は、並大抵ではなかったろうにと思うと、今また先生の書への熱情溢れる姿が甦りますね。弟子の私達には一切、経済的な苦労話はなさらなかった。ただ一心に、書の研鑽に励む人達のためだけを慮って、編集や手本揮毫に当たられていました。

（編）素晴らしい先生でいらしたのですね。

（久）なんといっても、人格が素晴らしい。そのお人柄・人格に惚れて、交流されていた多くの方が入会されましたね。書典会誕生のお産婆さんの役割をして下さった局長さんや著名な松本芳翠先生に表紙を飾っていただいたことで、県外の書道愛好者の関心も高かったものと思います。竹洞先生も『書海』誌では師範の高位にあって、ご活躍されており、美しい書風と温厚な人柄で、全国的に知己が多かった。その故か、入会者が北海道・青森・九州と、全国的に広まっていましたよ。さらに「文字を正しく・美しく」という分かりやすいモットーでの書風が、書の道に魅力を感じられ、会員増につながったと思います。

それから、竹洞先生のことで忘れられないのは、あるとき先生が「碧洋さん、大変なことになったよ。本社から『今回制定した公社の社訓を書いてくれ。全国の事業所に配布する予定。書体は〝書典〟誌何月号の裏表紙にある書体で』という命令指示が来てしまったよ。困ったよ」と。「先生、それはたいへん名誉なことですよ。お引き受けを」私は困り顔の先生に強く進言しましたよ。本社総裁は『書典』誌の裏表紙に掲載されていた写真版を見て、謹厳な書体に「これだ」と即決されたという。「親切公平・能率増進・責任完遂・経費節約・礼節親和」竹洞先生が一心に集中して書かれた社訓は、印刷され、全事業所に配布されました。その後、この社訓の筆者は誰だと、当時、社員の書の愛好者達の噂が広がったというわけです。

（編）それは素晴らしいことですね。人徳の為せるわざですかね。

（久）そうだね。でも先生が亡くなられたときは困った。とにかく困った。どうしようかと。私は全く書けなかったから。90年以上の人生の中で一番大きく悩んだ時だったね。でも、関わってくださった多くの先生方が「迷うことはないだろう。続けるだけだよ」と。熊本の日展会員の仮名作

家である川俣渓石先生も、「協力するよ」とおっしゃってくださり、本当に助けられた。七海水明先生も竹洞先生と親しかったのですが、応援してくれた。その後、自分の勉強、書くことだけはやったね。

（編）久津美先生が書をやってきた中で、良かったことはどんなことでしょうか。

（久）私には書は良い面でしか、その効果が現れたことがないんですよ。悪いことは一度もなかった。一度は神社の大きな幟を書かせてもらえた。30歳ぐらいで、たいへんではあったが、いい仕事ができたかなあと。ちなみに1年半の予科練における体験も、その後の人生に役立った。それまで、どちらかというとおとなしい子供だったけれど、予科練で鍛えられて、前向きに生きられるようになった。この15歳で入った予科練においても、それまで学んでいたことや鍛えていたことが役に立ったね。剣道は2段をすでに取っていたのだけど、厳しい鍛錬も、指導者側の方に入れてもらえ、随分救われた。それと、当時手紙は検閲を受けるのだけれど、どうやらそれで「こいつは書けそうだ」と思われたようで、あるとき分隊長から呼び出しを受け、何事かと少し恐れながら行くと、「30通の手紙の表書きをせよ」と。一度は断ったものの、「命令である」とのことで真剣に書き、「書き終わりました」と言うと、「大福を食っていけ」と。とてもとても大福などが手に入る状況ではなかったから嬉しかったし、美味しかったね。書をやっていて幸運を得られてつくづく良かったと思ったし、だから今まで書をやめようなんて一度も思ったことはありませんね。

（編）最後に連盟の皆さんにメッセージをいただけますか。

（久）私は現在、神経性の腰痛などの症状があり、書学も半ば休業状態で、偉そうなことは言えませんが、書は古い文化として継承されてきた、日本人特有の先人達の尊い遺産だと思います。それだけでも、私達は、次時代に引き継ぐ役割があると。しかも書の道には、多くの人達が共生していく中で、協同の集団でなくてはならないと思います。勿論、書を人生の友として、趣味として研鑽されている方も多い一方、書を美しい芸術として捉えている方も多いでしょう。古人が遺してきた書の道としては共通であろうし、連盟はそれらの人達が、同じ道を歩む集団、仲間達であると。「雅友同趣」、所属する書団が異なっても、組織が異なっても、「書の持つ美しさを探求、追求する集団、個人」であることをベースにして、自己研磨しましょうと言いたいですね。

私は書人生80年。人生は喜怒哀楽と言いますが、書の道も同様。しかし私は、94歳の高齢で、これまで書の道を歩んできて、悩んだり、苦しかったり、楽しんだり、口論したりの連続ではありましたが、でもそれらはすべて「心の運動」であり、それが長生きの要因だったかなと思っています。これからまだまだ、まだ見たことのない「未来」があります。どうぞお付き合い願います。今後も皆様よろしくお願いします。

（編）今日は長時間、貴重なお話をありがとうございました。

宗派を超えた写経（しゃきょう）会

副会長　大浦星齋

本連盟の正副会長および事務局長を中心とした有志による試み、写経入門講座「写経に親しみませんか」が昨年の7月31日(日)午後1～4時、県総合文化センター第1会議室において49名の参加者のもと和やかな雰囲気の中で開催されました。これは、長引くコロナ禍や世情不安を抱えて行動範囲が狭められる状況下にあっても、精神の涵養と書に親しむ機会の提供をすること、また、折しも創立50周年を迎えた栃木県文化協会への財政的支援とするべく企画されたものです。7月の講座開催の後、この活動の推進母体を暫定的に「栃木県写経倶楽部」と命名し、写経では特定の宗教色を伴わないものとして、今後宗派を超えた県内各地の名刹を巡ることが決まりました。天台宗祖最澄の没後１２００年にあたる昨年の暮れ12月11日（日）、栃木県写経倶楽部として初めてとなる宗派を超えた寺院巡りを清涼な霊気漂う聖地世界遺産輪王寺大護摩堂2階法話室にて実施。県内各地から参集した38名による法話を含め約3時間の充実した写経会となりました。空海生誕１２５０年となる今年3月4日（土）、2回目となる多気山不動尊写経会ではご住職の素晴らしい法話と、21名の参加者と共に写経に取り組まれる姿には深い感銘を覚えました。なお、3回目は9月24日（日）、前会長松本宜響先生の花蔵院での写経会が予定されています。是非、多くの方にお声を掛けていただき、ご参集いただけますことをお願いいたします。

栃木県書道連盟が現在抱える大きな課題は会員の高齢化と減少という問題です。その具体的対策の一つとして近い将来、本連盟が取り組む活動の一つとして位置づけられその発信力が膨らむことを期待しています。

輪王寺写経会

第九回日展（2022）
第74回毎日書道展（2023）
第39回読売書法展（2023）

中央書壇で活躍する連盟会員

常任理事　日賀野　琢

【中央書壇―この一年トピックス】

▼二〇二〇年以来、長引く「コロナ」騒動は社会生活に大きな打撃を与え、とりわけ我々の芸術文化活動に暗澹たる時代をもたらした。

▼しかしこの5月、感染法上の位置づけが5類に移行したことで、ようやく明るい兆しが見えはじめ、各種文化団体の動きも徐々に活発化し、コロナ以前に戻りつつあるように感じる。

▼我々文化を愛するものは、この三年間のコロナ禍の中で模索してきたあらゆる経験を大きな糧とし、今後も展覧会運営などの場面で、様々なリスクマネジメントを果たしていかねばならないだろう。

▼一方、日本書壇が一丸となって推進しているユネスコ無形文化遺産登録運動も「日本書道文化協会」を中心に活発な動きを呈している。昨年、文化庁の登録無形文化財に「書道文化」が選定され、同時に登録された「伝統的酒造り」に先を越されたものの、次こそは「書道」が確実という機運が盛り上がっている。約十年にわたる活動が結実する日も目前と言えよう。

＊　＊

ここでは、昨年の第九回日展の結果を紹介します。

第九回　日展

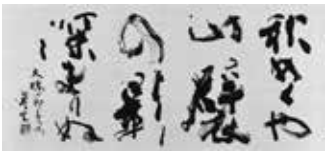
改組後の第九回目。八五七六点（前年比五八点の増）の応募に対し入選一〇八九点（前年比五点の増）、うち新入選が一九三点。入選率は一二・六％の厳選。栃木県勢は一二名（前年比プラス一点）、うち特選一、新入選一の大躍進！諸氏の健闘目覚ましい結果となった。

【特選】

○赤澤寧生氏

「山襲の影」（調和体）

【授賞理由】王羲之の用筆を規範に抑揚の効いた深い線とリズミカルな運筆が躍動感のある現代性豊かな作品に仕上がっている。漢字・仮名の調和も良く紙による視覚的効果も可読性を豊かにし、秀作といえる。



【新入選】

○上村千嶂氏

「高青邱詩四首」

（漢字・巻子本部分）

【入選】（五十音順・連盟会員のみ・役員のみ作品掲載）

○磯　翠茗氏

「荘子語二種」（篆刻）

○大竹汎泉氏

「落下篇（七言古詩）徐釚」

（漢字・巻子本部分）

○川上鳴石氏

「柳陰」（かな）

○嶋田周氏

「繋風捕影」（篆刻）

○塚原彩香氏

「春尽く」（漢字）

○中里弘峯氏

「村舎二首 其二」（漢字）

○福富玲茜氏

「豁然大悟」（篆刻）

○松尾光晴氏

「楊廷秀詩」（漢字

○松本純美代氏

「牛嶠詞 菩薩蠻」（漢字）

【会員】

○日賀野琢

「白樂天詩・聞虫」（漢字）

第74回毎日書道展

（連盟会員のみ）

●【毎日賞】

漢字Ⅱ類　渋江真璃（宇都宮市）

近代詩文書　萩野谷聡美（宇都宮市）

〃　齋藤寳統（宇都宮市）

●【秀作賞】

漢字Ⅰ類　平澤大廣（宇都宮市）

漢字Ⅱ類　石戸松波（日光市）

かなⅡ類　大塚浩泉（高根沢町）

近代詩文書　坂下歸眞（小山市）

大字書　高橋　陸（宇都宮市）

●【佳　作】（氏名のみ）亀和田郁芳・五月女章子・渡辺燁子・石崎亨・井野維子・上野紅鴛・鈴木寿和・人見祐子・藤沼亜衣

第39回読売書法展

（連盟会員のみ）

●【特選】（公募・会友対象）

［かな部門］　松本畔雪（栃木市）

●【秀逸】（公募・会友対象）

［漢字部門］　金子圭翠（栃木市）

金子芳清（栃木市）

竹中秋佳（栃木市）

第76回栃木県芸術祭美術展
―審査総評―

専門委員・審査員　村松太子

第七十六回栃木県芸術祭美術展書道部門は三年に渡るコロナ禍により出品数が激減した一昨年と比べ、昨年は四十二点増であったが、今年は二十四点増に止まった。出品者それぞれの熱意ある書美追求の姿が作品を通して拝見でき魅力ある作品に出逢えた。芸術活動こそこのような時代に貴いものと再認識できた。とりわけ入賞作品は現代書として豊かで質の高さが感じられた。

会場は、栃木県総合文化センター、期日は十月二十九日から十一月八日までの十一日間。審査会は九月二十九日に第一次（鑑別入落）審査、十月二十四日に第二次（入賞）審査を行った。審査は井上幸枝・大浦星齋・斎藤一吼・中原睦美・日賀野琢・松本宜響それに村松太子の七人がその任にあたった。厳正・公正に進めた。入選数は公募総数二九七点の七十四・一％二二〇点。

審査員の所感を箇条書きにしてみる。▽コロナ禍でありながらよく書いている。▽仮名の出品者が極めて少なく残念。▽新しい素材と表現に挑戦した出品者が数名いた。喜ばしい。▽ジャンルを問わず日頃の鍛錬の成果が窺え嬉しかった。▽審査員の審美眼に共通するものがあり、スムーズな進行になった。

次に審査員の入賞作への評をまとめてみる。

芸術祭賞

五月女章子「翔」少字数

躍動する運筆は筆力を駆使して、空間へ働きかけ真に飛翔するが如きと思われ見事だ。

「翔」五月女章子

準芸術祭賞

赤羽根義貴「終」漢字仮名交じり

世界の情勢を嘆く作者の想いが凝縮された作品。墨色と造形を巧みに組み合わせ紙面の白も生かした傑書。

準芸術祭賞

上村千嶂「遙見」漢字

全体に無駄のない空間処理がなされている。とりわけ厚みのある重厚な線質と骨格のしっかりとした文字の結構に安定感がみられる。

「遙見」上村千嶂

芸術祭奨励賞

石﨑享「遠」少字数
鈴木蓮徑「韋応物詩」漢字
小林庸子「勤能補拙」篆刻
亀和田郁芳「朱熹詩」漢字
北村のぞみ「事以密成」篆刻
坂本典子「春と秋」仮名
柏﨑麗泉「岑参詩」漢字
下司香雪「暮投思思亭」漢字
小林香風「高遜志・龍江紀事」漢字
和賀幸恵「夜坐」漢字

「終」赤羽根義貴

『とちぎ文化』より転載

令和4年度　収　支　決　算　書

収入の部　5,756,755　　（単位：円）

項　目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備　考
1. 会　費	3,100,000	2,940,000	△ 160,000	5,000円× 579口 2,500円× 18口
2. 会員展	320,000	286,000	△ 34,000	出品料 1,000円×286名
3. 女流展	150,000	131,000	△ 19,000	出品料 1,000円×131名
4. 懇親会費	980,000	0	△ 980,000	中止
5. 特別研修会費	0	150,000	150,000	参加費3,000円×50名
6. 雑収入その他	50,000	35,014	△ 14,986	利子　タックシール
7. 前年度繰越金	2,214,741	2,214,741	0	前年度繰越金
合　計	6,814,741	5,756,755	△ 1,057,986	

支出の部　4,226,478

項　目		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備　考
1. 総会費		60,000	28,150	△ 31,850	会場費
2. 展覧会費		900,000	875,201	△ 24,799	
	会員展	500,000	571,818	71,818	会場費 案内ハガキ　搬入搬出等経費
	女流展	400,000	303,383	△ 96,617	会場費 案内ハガキ　搬入搬出等経費
3. 会議費		340,000	452,012	112,012	
	顧問・参与会	20,000	0	△ 20,000	
	正副会長会	20,000	29,880	9,880	会議費
	常任理事会	100,000	181,016	81,016	会場費　会議費
	理事会	50,000	83,136	33,136	会場費　会議費
	専門部会など	150,000	157,980	7,980	総務・研修・書展 部会 会場費 会議費
4. 国際書道交流費		100,000	0	△ 100,000	
5. 研修費		330,000	584,236	254,236	
	講演会	80,000	95,000	15,000	講師謝礼　会場費
	実技講習会	100,000	80,847	△ 19,153	講師謝礼　会場費
	特別研修会	150,000	408,389	258,389	事前調査費、昼食代等補助
6. 地区活動費		0	0	0	各地区役員改選費用
7. 通信印刷費		1,100,000	541,826	△ 558,174	
	通信費	650,000	391,786	△ 258,214	送料 通信費　郵送通知料金等
	印刷費	450,000	150,040	△ 299,960	封筒　会報 行事案内等
8. 渉外運営費		400,000	201,216	△ 198,784	広告代 高校生顕彰　慶弔等
9. 事務局費		600,000	453,837	△ 146,163	
	消耗品費	150,000	148,638	△ 1,362	ラベル　プリンタインク　事務用品等
	事務運営費	450,000	305,199	△ 144,801	発送作業　ホームページ管理費等運営費
10. 懇親会費		1,200,000	0	△ 1,200,000	懇親会（開催なし）
11. 予備費		1,694,741	0	△ 1,694,741	
12. 会員展賞金		90,000	90,000	0	重原名誉顧問寄付金より(3万円×3名) ※寄付金残41万円
13. 連盟基金		0	1,000,000	1,000,000	会員展70回記念展・創立80周年記念展に備え 基金口座へ預入
合　計		6,814,741	4,226,478	△ 2,588,263	

残高の部　1,530,277

（内訳）収入決算額　5,756,755
支出決算額　4,226,478

※残高については、次年度へ繰り越しいたします。

◎連盟基金残高　2,932,573

（内訳）前年度繰越金　1,932,557
本会計より繰入　1,000,000
利　子　16

上記のとおり決算報告いたします。
令和5年3月22日

栃木県書道連盟会長　村松　太子
〃　事務局会計　渡邉　司實

令和4年度　栃木県書道連盟収入支出の決算について令和5年4月9日監査した結果、使途、領収書、証憑等適正であることを認めます。

監事　[illegible]
監事　坂本[illegible]

令和5年度　収支予算書

収入の部　6,030,277　　（単位：円）

項　目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備　考
1. 会　費	3,000,000	3,100,000	△ 100,000	5,000円× 590口 2,500円× 20口
2. 会員展	320,000	320,000	0	320名×1000円
3. 女流展	150,000	150,000	0	150名×1000円
4. 懇親会費	980,000	980,000	0	懇親会集金
5. 雑収入その他	50,000	50,000	0	利子　タックシール等
6. 前年度繰越金	1,530,277	2,214,741	△ 684,464	本年度繰越金
合　計	6,030,277	6,814,741	△ 784,464	

支出の部　6,030,277

項　目		本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備　考
1. 総会費		60,000	60,000	0	会場費等
2. 展覧会費		1,050,000	900,000	150,000	
	会員展	650,000	500,000	150,000	会場費 諸経費　※記念展
	女流展	400,000	400,000	0	会場費 諸経費
3. 会議費		500,000	340,000	160,000	
	顧問・参与会	20,000	20,000	0	1回 会場費等
	正副会長会	30,000	20,000	10,000	3回 会場費等
	常任理事会	200,000	100,000	100,000	6回 会場費等
	理事会	100,000	50,000	50,000	4回 会場費等
	専門部会など	150,000	150,000	0	総務 研修 書展各部会 実行委員会
4. 国際書道交流費		100,000	100,000	0	
5. 研修費		500,000	330,000	170,000	
	講演会	150,000	80,000	70,000	講師謝金・会場費・諸経費等
	実技講習会	100,000	100,000	0	会場費・諸経費等
	研修会	250,000	150,000	100,000	事前調査等を含む
6. 地区活動費		60,000	0	60,000	地区役員改選
7. 通信印刷費		1,100,000	1,100,000	0	
	通信費	650,000	650,000	0	通信連絡費　郵送通知料金等
	印刷費	450,000	450,000	0	総会資料 会報 行事案内等
8. 渉外運営費		300,000	400,000	△ 100,000	広告代 高校生顕彰 等
9. 事務局費		600,000	600,000	0	
	消耗品費	150,000	150,000	0	事務用品等
	事務運営費	450,000	450,000	0	管理運営費
10. 懇親会費		1,100,000	1,200,000	△ 100,000	懇親会支払
11. 予備費		510,277	1,694,741	△ 1,184,464	
12. 会員展賞金		150,000	90,000	60,000	記念展のため　3万円×5名
合　計		6,030,277	6,814,741	△ 784,464	

残高の部　0

◎ 連盟基金残高　2,932,573

令和４年度　事業報告

総務部	通常総会	4月3日(日)	会場：栃木県総合文化センター特別会議室 時間 13:00～14:30 進行：篠﨑無関(宇都宮)　議長：中原睦美（宇都宮） 書記：日賀野琢(宇都宮)、見目月華（塩谷） 議事録署名人：澤田寛(宇都宮)、鶴見晨蒲(宇都宮) 出席者76名　委任状297名　（会員数の3分の1：205名）
	祝賀懇親会	~~4月3日(日)~~　中止	栃木県文化選奨受賞報告、花束贈呈　　赤澤豊 常任顧問
	会報（41号）発行	8月28日(日)	Ａ４版 12頁 800部　第34回女流展、第59回会員展、実技講習会、連盟各種行事、地区だより、地区別催し物案内、研究報告等
	栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい	11月6日(日)　中止	~~会場：ホテルニューイタヤ 時間：受付15:30　開宴16:00~~ ~~会費6,000円~~（11月6日(日)批評会） ワークショップ11月6日（日）10：00～：11：30 講師：篠﨑無関「淡墨にじみ作品に挑戦」　21名参加
	書文化の普及と若手育成のための取り組み	10月中旬～2月	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 県内高等学校への案内送付：10/7(金) 推薦者申請締切・賞状の準備：　12月　審査決定：1/15 申請者13校23名（昨年10校22名） 表彰者13校23名（昨年9校20名） 結果通知：1/20 表彰状、ファイル発送：2月
研修部	講演会	4月3日(日)	会場：栃木県総合文化センター　特別会議室 時間：15:00～16:30　講師：関口鶴情　副会長 演題：「好奇心と共に歩む五十年」　　107名参加
	特別研修会準備	5月12日(木)	会場：日光山輪王寺神苑、浄土院内『従七位小林年保君碑』調査、採拓　9名 時間：9：00～15：00　大浦星齋副会長と研修部8名
	実技講習会	6月5日(日)	会場：栃木県総合文化センター 第1会議室 時間：14:00～15:30　講師：赤澤豊　常任顧問 演題：「今の自分を紙面に置く」　　128名参加 懇親会 ~~16:30～18:30　ホテルニューイタヤ~~ ~~会費:6,000円~~　中止
	特別研修会	10月16日（日）	日光方面　碑拓の採り方研修　現地集合 会場：日光山輪王寺神苑、浄土院内『従七位小林年保君碑』輪王寺宝物殿・逍遥園・紫雲閣、日光金谷ホテル 時間：9：00～15：00　47名参加
書展部	第59回会員展	4月1日(金)～4日(月)	会場：栃木県総合文化センター第1～４ギャラリー 3/31(木)搬入･展示 10:00～　会員296点、高校生13点 4/2(土)ギャラリートーク10:00～11:30 （磯翠茗、川島汀蒲、日賀野琢） 褒賞：栃木県書道連盟賞3点　（今回より賞金3万円授与） 赤澤寧生、川上鳴石、松尾光晴 審査員：正副会長　（賞金は重原聖鳥名誉顧問より寄付）
	第35回女流展	令和5年2月2日(木)～5日(日)	会場：栃木県総合文化センター第４ABCギャラリー 2/2(木)搬入･展示　9:00～12:00　　131点出品 2/5(日)講評会11:00～12:30　　講師:村松太子会長 懇親会　中止

○各種会議実施報告

会議	顧問参与会	0回	令和4年12/11(日)中止
	正副会長会	6回	6/12(日) 7/10(日) 8/28(日) 令和5年2/12(日) 3/5(日) 4/9(日)
	常任理事会	7回	7/10(日) 9/11(日) 12/4(日) 令和5年1/15(日) 2/12(日) 3/12(日)4/16(日)
	理事会	6回	4/3(日) 7/10(日) 9/11(日) 12/4(日) 2/12(日) 3/12(日)
	専門部会	16回	総務部 5回、 研修部 6回、 書展部 5回
	会計監査	１回	令和5年4/9(日)
	事務局会議･作業	6回	4/3(日) 4/10(日) 6/5(日) 8/28(日) 12/18(日) 令和5年2/23(祝)

令和５年度　事業計画

総務部	通常総会	4月23日(日)	会場：栃木県総合文化センター第１会議室 時間 13:00～14:30 進行：篠﨑無関(宇都宮)　議長：齋藤洋子(宇都宮) 書記：日賀野琢(宇都宮)、見目月華(塩谷) 議事録署名人：井上都洞(宇都宮)、佐藤孝(大田原) 出席者66名　委任状275名　(会員数の3分の1:200名)
	祝賀懇親会	5月28日(日)	会場：ホテルニューイタヤ　受付：17:00　開宴：17:30 会費：6,000円　参加者78名
	会報（42号）発行	8月27日(日)	Ａ４版 24頁 800部　第35回女流展、第60回記念会員展、実技講習会、特別研修会、各種行事、地区便り、各地区催し物案内、研究報告等
	栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい	11月5日(日)	会場：ホテルニューイタヤ 時間：受付15:30　開宴16:00 会費6,000円 (11月5日(日)批評会) ワークショップ10月29日(日)13：30～16：30 講師：大浦星齋副会長　「干支印を彫ってみよう」 会場：栃木県立美術館 普及分館
	書文化の普及と若手育成のための取り組み	10月中旬～2月	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 県内高等学校への案内送付：10/6(金) 推薦者申請締切・賞状の準備： 12月 審査決定：1/21結果通知：1/25 表彰状、ファイル発送：2月
研修部	第60回展記念講演会	4月23日(日)	会場：栃木県総合文化センター　第1会議室 時間：15:00～16:30　講師：株田昌彦先生　76名 演題：「絵画を制作するということ」-油彩画の魅力とは-
	第60回展記念イベント席上揮毫	5月28日(日)	会場：栃木県総合文化センター 第４ギャラリー 時間：14:00～15:30　110名 (小野﨑啓太、関奨人、髙田美千子、松尾光晴)
	研修会準備	6月8日(木)	会場：栃木市第二公園内「正五位藤川君碑銘」中林梧竹書、神明宮、満福寺　石碑調査、採拓 時間：9:00～15:00　村松会長、大浦副会長、研修部他12名
	研修会	10月15日 (日)	会場：栃木市第二公園、神明宮、満福寺　碑拓の採り方研修、空海講話他 時間：9:00～15:00　現地集合
書展部	第60回記念会員展	5月26日(金)～29日(月)	会場：栃木県総合文化センター第1～４ギャラリー 5/25(木)搬入・展示 10:00～ 5/28(日)ギャラリートーク10:00～11:30　60名 (赤澤豊、松本宜響、村田幽香各先生) 褒賞：栃木県書道連盟賞5点 (賞状・賞金授与) 磯翠茗、大原綾月、斎藤一吼、嶋田周、日賀野琢 審査員：常任顧問、正副会長
	第36回女流展	令和6年2月15日(木)～18日(日)	会場：栃木県総合文化センター第４ABCギャラリー 2/15(木)搬入・展示　9:00～12:00 2/18(日)講評会11:00～12:30　講師:五江渕霊水副会長 懇親会13:00～15:00 会場：ラカンタ

各種会議実施予定

会議	顧問参与会	1回	12/3(日)
	正副会長会	4回	7/9(日)　8/27(日)　11/19(日)　令和6年4/14(日)
	常任理事会	9回	5/14(日) 7/9(日) 9/3(日) 11/19(日) 12/3(日) 令和6年1/21(日) 2/11(日) 3/3(日) 4/21(日)
	理事会	6回	5/14(日) 7/9(日) 9/3(日) 12/3(日) 令和6年2/11(日) 3/3(日)
	専門部会	30回	総務部 13回、 研修部 10回、 書展部 7回
	会計監査	1回	令和6年4/14(日)
	事務局会議・作業	6回	4/23(日) 4/30(日) 8/27(日) 11/5(日) 12/17(日) 令和6年2/23(祝)

各地区催し物案内（令和5年9月～）

展覧会名称	会　　期	会　　場	責任者
第48回下野の書展	R5.8.30(水)～9.4(月)	FKD ショッピングモール宇都宮インターパーク店	下野新聞社
第31回書友会同人展	R5.9.8(金)～10(日)	とちぎ岩下の新生姜ホール（栃木文化会館)展示室	田中　暁亭
第33回さくら市書道連盟展	R5.9.28(木)～10.1(日)	さくら市ミュージアム市民ギャラリー	八木澤秀巌
第17回日光市書道連盟会員展	R5.9.28(木)～10.1(日)	日光市杉並木公園ギャラリー	皆川　桂花
中野永峰先生遺墨と弟子達の書展	R5.10.6(金)～9(月)	栃木県総合文化センター第4 ギャラリー	岡村　白秋
令和5年度上三川町文化祭書道展	R5.10.13(金)～15(日)	上三川町体育センター	高山　　正
第52回抱原会書展	R5.10.13(金)～15(日)	那須野が原ハーモニーホール	塩野　玄機
足利市民文化祭書道展	R5.10.14(土)、15(日)	足利コムファーストショッピングセンター3F 大催事場	上村　千嶂
第45回鹿沼市民文化祭書道展	R5.10.20(金)～22(日)	かぬまケーブルテレビホール（市民文化センター)多目的ギャラリー	板橋　寿鶴
第19回墨心会書展	R5.10.27(金)～29(日)	那須野が原ハーモニーホール	長嶋　石城
第77回栃木県芸術祭美術展書道展	R5.10.28(土)～11.7(火)	栃木県総合文化センター	県文化協会
癸生川天遊書展	R5.11.9(木)～12(日)	栃木県総合文化センター第1 ギャラリー	癸生川天遊
第68回小山市市民文化祭	R5.11.24(木)～27(日)	小山市立文化センター小ホール	倉持　玄風
第21回大田原市書道連盟展	R5.11.17(木)～19(日)	那須野が原ハーモニーホール	村田　幽香
第44回栃木市栃木文化祭書道展	R5.11.17(金)～19(日)	とちぎ岩下の新生姜ﾎｰﾙ（栃木文化会館)展示室	川島　汀蒲
佐野市書道連盟30周年記念展	R5.12.2(土)、3(日)	佐野市文化会館	大芦　芳洲
第51回鹿沼市民書初展	R6.1.10(水)～14(日)	かぬまケーブルテレビホール（市民文化センター)多目的ギャラリー	渡邉　司寶
第51回清明書展	R6.1.11(木)～14(日)	栃木県総合文化センター第4 ギャラリー	岡村　白秋
栃木県書道連盟第36回女流展	R6.2.15(木)～18(日)	栃木県総合文化センター第4 ギャラリー	塚原　秀巌
佐野文化協会合同展覧	R6.2.23(金)～25(日)	佐野市文化会館	大芦　芳洲
第21回鹿沼市書道連盟展	R6.3.15(金)～17(日)	かぬまケーブルテレビホール（市民文化センター)多目的ギャラリー	塚原　秀巌
竹心会書展・併催大竹汎泉書展・併催笹沼壺石遺作展	R6.3.30(土)、31(日)	佐野市文化会館	大竹　汎泉
竹心会書展	R6.4.12(金)～14(日)	宇都宮市立南図書館ギャラリー	竹澤　久子
第22回栃木県生涯学習書展	R6.4.12(金)～15(月)	栃木県総合文化センター第4 ギャラリー	岡村　白秋
栃木県書道連盟第61回会員展	R6.4.26(金)～29(月)	栃木県総合文化センター第1~4 ギャラリー	塚原　秀巌
第31回白玄書展	R6.5.25(土)、26(日)	足利コムファーストショッピングセンター3F 大催事場	関口　鶴情
第52回書友会墨秀展	R6.6.28(金)～30(日)	とちぎ岩下の新生姜ホール（栃木文化会館)展示室	田中　暁亭
令和6年度小山市書道連盟展	R6.6.28(金)～30(日)	道の駅 思川 評定館	倉持　玄風
公募第53回東日本書展	R6.7.26(金)～29(月)	栃木県総合文化センター第1.2.4 ギャラリー	五江渕霊水
第58回素心社書展併催篠崎宏道書展	R6.7.31(水)～8.3(土)	栃木県総合文化センター第4 ギャラリーA・B	澤田　　寛

今後の展覧会の会期や場所に関しましては予定ですので詳しくは各主催者にお尋ねください

令和４年度 栃木県書道連盟表彰「高校生書道顕彰」

常任理事　篠崎無関

令和４年度の高校生顕彰につきまして報告いたします。

例年通りに県内高等学校・特別支援学校に案内し、候補者を提出いただき、13校23名が候補に。常任理事会で慎重に検討し、13校23名全ての候補者を顕彰者として承認。表彰状と賞状ホルダーを進呈いたしました。

なおこのうち17名に、受験、卒業、進学など忙しい合間を縫って第60回連盟会員展にも半紙を出品していただきました。今後も書道の楽しさを引き続き味わって行ってほしいものです。

令和４年度書道顕彰一覧

宇都宮高等学校　井上　拓也
宇都宮東高等学校　木崎　泰伽・高橋舞凜花
宇都宮北高等学校　加藤納乃波
宇都宮女子高等学校　前多　桃伽・若林　知里・奥備　愛
宇都宮中央女子高等学校　加藤　あい・田仲　優花・土井　千智
鹿沼高等学校　樋口　煌乃
栃木高等学校　大豆生田凌我・平井　靖大・今田　航希
真岡女子高等学校　大塚　千尋
那須拓陽高等学校　大森　成海
矢板東高等学校　小堀　紗幸・菅谷　舞菜
作新学院高等学校　伊藤　綾郁・深澤　結衣
國學院大學栃木高等学校　今井　柚莱
矢板中央高等学校　幸田　侑也・小倉　曜

令和４年度　連盟一年間のあゆみ

月	日	出　来　事
4月	1日(金)～ 4日(月)	第59回会員展　出品309点 栃木県総合文化センター全ギャラリー 連盟賞：川上鳴石・赤澤寧生・松尾光晴各氏
	２日（土）	ギャラリートーク 磯翠茗・川島汀蒲・日賀野琢各常任理事
	３日（日）	通常総会（13：00～14：30）　79名参加 議長：中原睦美氏
	〃	講演会　講師：関口鶴情副会長 「好奇心と共に歩む五十年」 107名参加
	〃	第１回理事会 ともに総合文化センター特別会議室
	10日（日）	総会資料等発送作業 総合文化センター第３会議室
5月	12日（木）	特別研修会準備　９名参加 日光山輪王寺神苑、浄土院内 『従七位小林年保君碑』
6月	５日（日）	実技講習会　講師：赤澤豊常任顧問 「今の自分を紙面に置く」　128名参加
	〃	総務部会報編集会議 ともに総合文化センター第１会議室
	12日（日）	第１回正副会長会 総合文化センター和室
7月	10日（日）	第２回正副会長会 第１回常任理事会 第２回理事会 総務部会報第1回校正 ともに総合文化センター第１会議室
8月	５日（金）	総務部会報第２回校正 ホテルニューイタヤ
	28日（日）	発送作業 会報・特別研修会案内・女流展要項等 第３回正副会長会 総合文化センター第３会議室
	31日(水)～9/5日(月)	*第47回「下野の書展」*
9月	11日（日）	第２回常任理事会 第３回理事会 総合文化センター第１会議室
	17日（土）	第４回正副会長会 日光山輪王寺

月	日	出　来　事
10月	10日（月） 16日（日）	高校生顕彰案内発送 特別研修会　47名参加 拓本の採り方研修他 日光山輪王寺神苑、浄土院内 『従七位小林年保君碑』 保晃会之碑・日光金谷ホテル他
	29日(土)～11/8日(火)	*第76回栃木県芸術祭美術展　書道部門展覧*
11月	５日（日）	栃木県芸術祭入選入賞者の集い〈中止〉
12月	４日（日）	第３回常任理事会 第４回理事会 忘年懇親会は中止 ホテルニューイタヤ
	11日（日）	顧問参与会〈中止〉
	18日（日）	会員展要項･出品票発送作業 総合文化センター第４会議室
1月	*13日(金)～15日(日)*	*栃木県文化協会「代表作家小品展」*
	19日(木)～24日(火)	*第28回栃木の書壇50人展」*
	22日（日）	第４回常任理事会 高校生顕彰者決定 ホテルニューイタヤ その後決定通知発送・賞状発送等
2月	2日(木)～ 5日(日)	第35回女流展　出品131点 総合文化センター第4ギャラリーABC
	５日（日）	講評会：村松太子会長
	12日（日）	第５回常任理事会 第５回理事会 総合文化センター第1会議室
	〃	第５回正副会長会 総合文化センター和室
	23日（祝）	総会・会員展案内状等発送作業 ホテルニューイタヤ
3月	５日（日）	第６回正副会長会　会計監査
	12日（日）	ホテルニューイタヤ 第６回常任理事会 第６回理事会 総合文化センター第１会議室
4月	16日（日）	第７回常任理事会 ホテルニューイタヤ

〈斜体展覧会は連盟の協力する書展です〉

事務局より

事務局長　塚原秀巌

◆お知らせ

○入会手続きが栃木県書道連盟ホームページから簡単にできます。展覧会情報も掲載されておりますのでご覧ください。

○ダイレクトメール用住所ラベルを連盟後援団体に5千円にて提供しています。（後援申請書の提出が必要になります。）後援申請用紙はホームページからダウンロードできます。

◆お願い

○年会費が未納のままになっている方はお早めに納入をお願いします。

○住所・連絡先など変更事項がある場合は、事務局 TEL ０８０（９４０４）８３８５までお知らせください。

お悔やみ

会　員　大類　尚石様（宇都宮市）（令和四年十一月逝去）

事務局にご連絡を頂戴した方のみ掲載いたしました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

栃木県書道連盟ホームページ

携帯電話からもご覧になれます。携帯のバーコードリーダー機能で読み取ってご覧ください。